



一般社団法人このゆびとまれ



森西区での大学生の稲刈り体験

一般社団法人このゆびとまれ（自立支援事業・生活介護事業を運営）では、「障がいがあってもなくても自信を無くしたり困ったりした時はここにおいて」との思いで利用者の支援に取り組まれています。活動の一つに、飛び出し方や看板の製作があります。資材の切り出しから完成までの全てを手作業で行い、市内外の学校・保育所、自治会等へ納品されています。マキノ地域でも随所で目にするこゝが出来ます。

利用者からは「私たちが製作した商品が地域に貢献していることが嬉しい」「製作活動で様々な方と交流することによって自分に自信が持てる」との声が聞かれます。また、支援員は「看板製作を

森西区は、龍谷大学経済学部「高島市棚田地域調査」に協力しており、9月9日には、棚田担当役員の指導により、稲刈りから稲木干しまでの体験活動を実施しました。ぬかるみに足を取られたり刈った稲を括ることに苦戦したりしていた学生も、役員からコツを教わると、約20人の学生全員で7アールの田んぼの稲刈りをやり遂げることが出来ました。

参加した学生からは、「5月の田植えの時には小さかった苗が大きく成長して沢山実っていたのが嬉しい」「お米を作ることは多くの労力と手間がかかることを体験できた」との声が聞かれました。シャツに跳ねた泥や額の汗から、食や生産地への思いが



芽生えることが望まれます。学生達は、今回の体験を基に中山間地域の魅力を考え、地域活性化について研究します。

通して築いた地域との関係を更に深め、障がい福祉の一層の理解と、その他の事業もお力を借していただきたいと思います。」と仰います。